

技術概要書（様式）

※別紙2

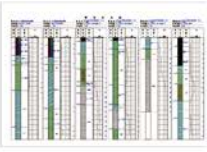
技術分類	☒ 安全・防災 ☐ 維持管理 ☐ 環境 ☐ コスト ☐ ICT ☐ 品質 （該当する分類に○を付けてください）		
技術名称	地盤情報データベースシステム	担当部署	ジオクラウド事業部
NETIS登録番号		担当者	遠藤 美里
社名等	応用リソースマネジメント(株)	電話番号	03-6240-0448
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 これまでボーリングデータは、古いものであれば紙で保存されていたり、データ化されていたとしても各解析担当者のパソコンの中でのみ管理されるなど、社内での情報の共有・管理が進んでいなかった。また、考察のために必要な地理・地質・地盤情報については、オープンデータの公開元が統一されていないため、一つ一つのデータを見に行って確認する必要があった。 以上のような課題から当社では、ボーリングデータをはじめとする各種地理・地質・地盤の情報を一元管理し、社内のどの担当者にとってもアクセスしやすい情報にすることで、業務の質と効率を上げられると考え、地盤情報のデータベースシステムを構築した。 2. 技術の内容 2つのクラウドサービスを連携させることで、地盤データや地理情報を管理・可視化できる <BoringCloud> ボーリング柱状図の作成と、ボーリングデータの検索が可能。自社データの入力・管理はもちろんのこと、日本全国のオープンボーリングデータも収録済み。作成したボーリングデータは、社内でも共有データとして蓄積されるため、自社のボーリングデータベースが構築できる。 <ReportMAP> 地球コンテンツ（地理・地質・地盤情報などさまざまなオープンデータ）を集約したWEB-GISシステム。調査地周辺の考察資料としてこれら情報抽出をクラウド上で実行できる。また、Boring Cloudと連携することで、自社で登録したデータ（ボーリングデータなど）を地図上で管理することができる。 3. 技術の効果 データ入力から管理までをシームレスな操作で行えるので、リアルタイムな社内情報共有が可能となり、業務の効率化と地盤情報資産の利活用が実現できる。また、地盤情報を集約しデータベース化することで、将来的なSIMやi-Constructionへの対応を見越した情報の整備ができる。 また、登録されたデータは最高レベルのセキュリティを誇るクラウド環境上で管理されますので、データの流出や、ハードウェアの故障によるデータ消失などが防げる。 4. 技術の適用範囲 ・建設コンサルタント業務における設計業務・情報管理等の効率化 ・地域防災計画におけるハザードマップ作成 ・防災教育等での地盤情報の啓蒙 ・不動産取引での事前リスク情報の把握 ・地盤情報コンテンツを活用した新マーケットの創出 5. 活用実績 国の機関 0 件 （九州 0件 、九州以外 0件 ） 自治体 3 件 （九州 0件 、九州以外 3件 ） 民 間 550件 （九州 70件 、九州以外 480件 ）		

6. 写真・図・表

Boring Cloud[®]

地盤情報データベースシステム

- 地質・土質調査成果電子納品要領（案）平成 28 年 10 月版を含むすべての柱状図様式に対応
- クラウドリンク
- JACIC 柱状図様式作成機能
- CAD データ出力機能（簡易柱状図）
- ボーリングデータインポート（他社対応・XML インポート・エクスポート）
- BoringJrV パッケージからのインポート

※簡易柱状図



※ボーリングデータ入力画面

データ連携

Report MAP[®]

広域地盤情報 WEB-GIS システム

- 地盤診断レポート出力機能
- 地盤リスク、地質情報（ボーリングデータ）を、日本全国収録
- 自社物件のカスタムレコード作成機能
- 地図画像、図面データ貼り込み機能
- 地質断面図作成機能（DXF出力も可能）
- オリジナルレイヤー追加機能



ビッグデータの集約

- 地盤データベース
- GPSブロープ情報
- 自社コンテンツ
- 人工統計データ
- 災害リスク情報
- 生活周辺情報
- 計測機器情報
- リアルタイム情報

ビッグデータの可視化

- @Balloon
位置情報の利活用
- 地盤情報 AR
地盤地理 3次元化
- 地盤診断レポート
ワンクリックでレポート出力